



亀井神道流 西日本吟詠会総本部 広報部
題字: 波多江啓峰



雪の大宰府政庁(都府楼)跡



新年祝詞

西日本吟詠会 最高顧問
大宰府天満宮 最高顧問

西高辻 信良

謹んで御皇室の弥栄と御国の平安を心より祈念申し上げます。

さて、菅原道真公の御生誕になった平安初期は、唐風文化時代で漢文学の最隆盛期と言われています。漢詩文の精華を集めた『凌雲集』『文華秀麗集』『経国集』このいずれの編集にも携わった学者は、祖父の菅原清公ただ二人でした。清公は、遣唐使判官として入唐し、多くの書籍を持ち帰られ、それが「書齋」となります。中国の六朝から唐時代にかけて流行した修辭法の駢儷文、対句、典故なども移入され、それらはわが国における文章道の真髄になったと考えられており、その漢詩文の修辭法の我が国最高傑作が菅原道真公の『菅家文章』といわれています。この時代、それまでの漢詩文が中国の模倣であったのに対し、日本語のもつ繊細な情緒が融合し、独特な表現になる転機となります。また、唐風化への極端な推進は、わが国本来の和風文化に着眼する契機にもなりました。すなわち、古代において日本文学の進むべき方向を後世に指し示されたのが菅原道真公といえるのです。

『菅家御伝記』の中に、「菅家御集」という和歌集が巻ありますが、名だけが残り、書物は現存していません。したがって漢詩文ほどに伝わっていません。『古今和歌集』に収められている「このたびは ぬさもとりあへずたむけ山 紅葉の錦 神のまにまに」この歌を、坂本大郎博士は「漢文的な感覚の日本的な表現」と記してあります。大和国へ宇多上皇の御幸の時の歌で、即興でありながら、華麗で技巧的な感性があるといわれています。「こち吹かば句ひおこせよ梅の花 あるじなしとて春な忘れそ」「拾遺和歌集」に載せられている和歌です。左遷の命が下り、大宰府に向かつて旅立つ時に紅梅殿の梅の木に詠まれました。「春風に」と詠まずに「東風」とされるところは漢文の典故的表現で「万葉集」にはあまり見られない命令表現も二つあります。しかし、漢詩に多い「香り」とせず「匂ひ」と詠まれているところに、和風文化が感じられるのです。末筆乍ら、西日本吟詠会会員各位の御多幸をお祈り申し上げます。



新年おめでとうございます。

会員並びに後援会員の皆様におかれましては、お揃いで和やかに、そして健やかに清々しい新春をお迎えのことと、衷心よりお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスの流行状況に、「喜憂した三年余りでしたが、そろそろ収束・終息に向かつて欲しいと願うばかりです。

文化活動を続ける吟界にとつては、大層厳しい環境下でしたが、お陰様で、皆様の英知と温かいご理解及びご協力により、辛うじて吟詠活動を続けることが出来ました。これも偏に太宰府天満宮様や毎日新聞社様をはじめ、皆様のご支援の賜と重ねて心から厚くお礼を申し上げます。

新春所感

亀井神道流第三世宗家
西日本吟詠会 会長

諫山 岳陽

今年、西日本吟詠会は創立九十四周年を迎えます。来年は、節目の九十五年周年を迎えるわけで、皆様と共に細やかであつても、心温まる祝賀の催しが開催できればと考えています。各担当部門の皆様には、様々なアイデアを出して頂くことを期待しています。

さて、今年の干支は、「癸卯」(みずのと・う)です。静かで温い恵みの雨が降り注ぎ、草木を生き生きと蘇らせる年だそうですね。様々な方が、今年の運勢を占っておられますが、本来、この言葉の持つ意味は、「これまでの努力が花開き、実り始めること」という縁起の良さを表しているそうです。一方でウサギのようにピョンピョンと何かが跳ね上がる暗示もあるそう

です。私達も肖つて、永年の活動の成果が実を結び、更なる向上と発展並びに大いなる飛躍を遂げたいものです。

私ことで恐縮ですが、昨年夏から秋にかけての一番大切な時期に、ちょっとした油断から腰を痛めてしまいました。その間、皆様には大変なご迷惑をおかけしてしまいました。昨年の新春号の「新春所感」の中で、貝原益軒の「養生訓」引き合いに「自分の身体は、父母から授けられ、子孫へと残すものであるから、不摂生をして傷めてはいけません。」と提唱しましたことが、恥ずかしく思い出されます。

これからは、「年齢」を自覚して健康に留意しながら吟詠活動を続けて行きたいと思えます。

以前、私はある吟友から、「心に響く言葉」を頂戴し、本誌で紹介しましたが、今回は「心に刺さる言葉」をご紹介いたします。

「疲れた」は、頑張った証拠。

「失敗した」は、挑戦した証拠。

「緊張する」は、本気の証拠。

「笑える」のは、楽しんでる証拠。

「怒る」のは、真剣だった証拠。

「泣く」のは、我慢していた証拠。

「裏切り」は、信じていた証拠。

「つまづく」は、成長している証拠。

「失恋」は、愛していた証拠。

「もついい」は、全然良くない証拠。

なかなか含蓄のある言葉であり、ものは考えようで、私達の意識の改革に役立ちそうですね。最後になりましたが、皆様にとりまして、今年が良い年でありますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。



コロナに負けずに 会の発展を!



常任顧問
豊福恒陽

皆様令和五年の新春を迎えられましたこと誠におめでたく謹んでお慶び申し上げます。

以前として新型コロナウイルス感染症の流行は拡大と縮小を繰り返しながら続いていると云われております。当然対策を考えなければなりません、指導者会議で十分検討がなされると思えます。

コロナが流行して約3年、その間いろいろな大会が開催中止になったり、会場の使用が禁止されたり、大会のみならず、すべての公演も休演になり世界中が混乱に陥りました。日本だけでも昨年11月までに約二五〇〇万人が感染しております。

皆様も個人的に考えて対策を実行しておられると思います。守るべきことを守ることが今一番大事なことだと思いますのでがんばりましょう。早く感染者が大巾に減少しいろいろな制限が解除されることを願う次第であります。私事になりますが、会社

を定年退職し七十才を超えたころから病気がちになりましたがなんとか立ち直ったところから大病を患い、皆様には大変後迷惑をおかけすることになり大変申し訳なく存じておりましたが最近大分体力が回復してまいりましたので体力の範囲内でお役に立ちたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。皆様方におかれましては日常生活の基本でありましてご健康には十分ご注意ください。西日本吟詠会の益々の発展を祈念申し上げます。

新年に思う



顧問・宗伝
鳥井 幸陽

新年おめでとうございます。今年は何年跳ねたくなるような喜びを感じています。

宗家会長先生の大手術それも脊髄心配いたしました。昨十月二十二日に「退院するよ」とお電話を頂いたそのお声しつかりした張のあるお声、嬉しさにすーっと涙が流れてきました。思えば先生も八十才。私も八十才のときは元気で大豪

公園を二周、三周と走っていた頃、予期せぬ大手術家族は呼び出され手術は長時間に亘る生命は本人の生命力のみと：私は別室で一時間それぞれ担当される十人の先生、手術時間は六時間半、当日は九時に手術室、私は麻酔で判りません。夕方六時近く家族の前を通り「ありがとう」と言ったのは覚えてい。どんな思いで待ったでしょう。退院して二日目全く声が出ない一ヶ月、その後数回の入院、総て二週間「もう入院は終りだ。貴方は何をしていますか、八十代とは思われない腹筋力がある快復が早い」「詩吟を長く続けています」「そのお陰で命を頂きましたね死ぬまで続けなさい」と：宗家先生と私手術の内容は違っても同じ八十代での大手術宗家先生はしつかり声が出ている。又、きれいな声でご指導頂けると思うと嬉しくなる。然し体を愛うてください。先生のご努力で大きくなつた西日本吟詠会、やがて訪れる亀井神道流西日本吟詠会創立百周年の記念大会諫山宗家会長先生第三世宗家として盛大に実施されることを願っています。

崇敬会だより

秘書部長 諫山 星陽

恒例の第五十四回太宰府天満宮崇敬会奉幣大祭並びに大会が昨秋十月十三日・十四日に開催された。三年ぶりの開催ということで、本会からも三十八名の会員が参列、ご本殿の神事では渡邊昇陽理事長が宗家の代理として玉串奉奠に臨んだ。



ご挨拶中の西高辻信宏宮司

会場を余香殿に移しての大会では、全員で敬神生活の綱領を唱和した後、各支部の功労者に西高辻信宏宮司から、表彰状が授与された。又、天満宮崇敬会の新しい神官の紹介があった。

宮司挨拶では「令和九年が道真公が亡くなられて、千百二十五年という節目の年を迎えます。来年五月からは二三年ぶりのご本殿大改修が始まります。会員の皆様の温かいご協力とご支援をお願いします」と述べられた。

講演の講師は、出光興産出身の奥本康大氏で、創業者出光佐三氏の愛国経営者としての神髄を中心にその人物像と功績を詳しく語られた。又、出光佐三氏が亡くなられた時に故昭和天皇が詠まれた次の御製が披露された。

「国のため ひとよ貴き 尽くしたる 君また去りぬ さびしと思ふ」

直会では、橋口康陽総師範が「名槍日本号」を朗々たる吟声で披露し盛大な拍手を浴びた。



熱吟の橋口総師範

東照公(家康)が残した和歌

今年のNHK大河ドラマは「どうする家康」です。東照公遺訓に「人の一生は重荷を負い遠き道を行くがごとし」とあるように、幼少時代から苦難の道歩き続けた主人公家康の生涯が描かれています。

ここでは、彼が詠んだと確認されたものの中から、時系列的にご紹介致します。



徳川家康公画像

実利的人物と評された家康が、和歌を詠んだのは、不思議に思う人も多いかも知れませんが、今川氏真と歌道を論じた話などが伝えられていて、実際に、十数首の和歌を残しています。後に、天下人となるだけあって、詠歌の歌風もかなり個性的のようです。

天正十二年(一五八四)家康公は、秀吉を相手に小牧長久手で戦っています。功を挙げた家来の梁田弥二郎に名刀「払い切月山

永祿三年の「桶狭間の戦い」後、今川家から独立した家康は、永祿六年(一五六三)松平家康と名乗ります。二十二歳の青年武将家康の心意気を詠んだのが次の和歌です。

「幾千歳籬の菊の色に香に
君が今年の栄ますらむ」

天正三年(一五七五)、織田・徳川軍は、武田軍との長篠の戦いに勝利しています。

この年、家康公は、次の和歌を詠んでいます。

「ころは秋ころは夕暮れ身はつ
何に落葉のとまるべきかわ」

の刀」を贈っています。その時、刀に添えたのが次の和歌です。

「先駆けて火花を散らす武士は
鬼九郎とや人は言はまし」



長篠・設楽原古戦場跡



小牧長久手古戦場跡

武士が部人らしく、武芸に励み、合戦においては、勇ましく戦う武士を好んだ家康公らしい力強い作風の和歌といえましよう。
天正十六年(一五八八)、秀吉は、正親町上皇と後陽成天皇を聚楽第に招いた行幸の折、公家、諸大名と歌会を催しました。家康公も次の和歌を詠んでいます。

「緑立つ松の葉ごとにこの君の
千歳の数を契りてぞ見る」

歌意は、松の葉が一本一本付いているように、皇室の弥栄と後陽成天皇の長寿を祈ったと解釈できます。

文祿三年(一五九四)秀吉は、諸侯を従え吉野で盛大な花見を催しました。この時、家康公も二首の和歌を詠んでいます。

「咲く花を散らさじと思ふみ吉野は
心あるべき春の山風」

「待ちかめる花も色香をあらはして
咲くや吉野の春雨の音」



関ヶ原家康本陣址



吉野山の桜

慶長五年(二六〇〇)の関ヶ原の戦に勝利した家康公は、その日の陣所で次の歌を詠み、高野山常住光院に贈ったと伝えられています。戦勝後の余裕が感じられる和歌です。

「旅なれば雲の上なる山越えて
袖の下にぞ月をやどせる」

慶長十八年(二六三三)家康公は、相模の国(現在の横浜市瀬谷区)を訪れた際、美しい風景に感銘を受け二首の和歌を詠みましたが、のちに「二ツ橋」の地名の由来と伝えられています。



二ツ橋地名由来の碑

「しみじみときよきながれの清水川
かけ渡したる二ツ橋かな」

「相模野の流れもわかぬ川水を
掛け並べたる二ツ橋かな」

元和二年(二六一六)は、家康公生涯最後の年です。前年に天下に並び立つ恐れのある豊臣家を滅亡させ、精神的に解放されたのか、この年、堰を切ったように数首の和歌を詠んでいます。

「武士の道の守りをたつか弓
八幡の神に世を祈るかな」

「松たかき丸山寺の流れの井
幾年澄める秋の夜の月」

「ついに行く道をば誰も知りながら
去年の桜に色を待ちつつ」

「治まれる大和の国に咲き匂ふ
いく萬代の花の春風」

「のぼるとも雲に宿らじ夕雲雀
ついには草の枕もやせむ」

「稲村に友を集むる村雀
願いある身の忙しきかな」

「人多し人の中にも人ぞ無き
人と為せ人人となれ人」

朝廷より太政大臣に任ぜられました。四月十七日、病気の爲、死去しました。享年七十五歳でした。辞世の和歌を二首残しています。

「嬉しやと再び覚めてひと眠り
浮世の夢は暁の空」

「先に行き跡に残るも同じこと
連れて行けぬを別れとぞ思ふ」

二首目は、人の命を大切にしたい武将らしく、暗に家臣の殉死を勧めさせる、家康公の心の優しさを彷彿とさせる和歌といえましょう。

人の一生は重荷を負って遠き道を行くがごとし。急ぐべからず。不自由を常と思えば不足なし。ここに望みおこらば困窮したる時を思い出すべし。堪忍は無事長久の基、いかりは敵と思え。

勝つ事ばかり知りて、負くること知らざれば害その身にいたる。おのれを責めて人をせむるな。及ばざるは過ぎたるよりまさり。

【諫山岳陽識】

（東照公遺訓）

年男・年女

七廻り目の 卯年を迎えて



宗師範
濱地 錦陽

明けましてお目出度うございます。
今年七回目の卯年を私が迎えるとは思ってもよぬ事です。

諫山宗家御夫婦とのお縁で多くの知識を得、吟友にも恵まれ四十余年も続けられたと思います。体調がすぐれず、何度かつまずきそうになりましたが、やはり吟の魅力に惹かれていたからだと思います。
昨年一月に主人の米寿のお祝をし、私が祝吟を吟じたところ一番喜んでくれたのは主人でした。

米寿祝の歌

鶴は千代とぞ呼び交す
八十八は数ならし
年を重ねて百返り
君よ八千代の後までも

五人の孫達もしっかり拍手をしてくれました。

今年数年続くコロナの終息を願い、卯年は「飛躍」「向上」の年だそうです。どうぞよりよき年となります様お祈りいたします。

六回目の年男です



師範
柴田 勘陽

貧しい農家の六男で、育ちもずっと福岡です。

父が十才の時他界し、母は大変苦労し、父の五十回忌も済ませて九十一才で他界しました。大学は奨学金とバイトで自費で卒業しました。母の希望であった教職に就いたのが、せめてもの親孝行だと思います。初めて詩吟をきいたのは十才の時、父の葬儀での母の吟でした。残念ながら仕事で多忙でしたので母のステージでの独吟は一度も聴けませんでした。

川先生の弟子として教室を受け継いでいます。

私生活では二女と三人の孫に恵まれ、孫の生長が一番の楽しみで日々過しております。

卯年を迎えて



師範
古賀 富陽

新年お目出度うございます。兎の支と七回巡り思いもかけず年を重ねることに感謝し本年がハッピーでありますようにと願っております、今までに三回死に目に合い昨年は正月早々脚立から落ち、メダカの掃除で圧迫骨折で入院、台風の突風に煽られてと災難の年でありましたので。

吟との出会いは末松先生の教室に誘われて「詩吟」とは幼い頃、祖父が浮羽工業高校の教練をしていた折自宅の座敷に学生の何人が正座し、今思えば「鞭声粛粛」を着物袴姿で無い吟じていた姿が脳裏に蘇り入会し年数重ねるも上達出来ず自分の腑甲無さに呆れております。学ぶ程に詩の意味の深さ、吟ずる事の難しさと思いつつ大好きな吟健

康維持の為
吟道を 進む我が道

楽しけれ

一生勉強、一生青春を心がけ精進して参ります。

ご宗家会長先生諸先生方、今後共々ご指導の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。

人望ある リーダー像



渉外部長 宗師範
吉弘 翔陽

つい最近、中国古代の歴史書で「書経」という書物の中に記載されている、リーダーに求められる九つの条件に触れる機会を得た。

この「書経」には、伝説の聖人である堯・舜から夏・殷・周王朝までの天子や諸侯の政治上の心構えや訓戒・戦いに臨んでの檄文などが記載されているので、皆様も目にされることがおありと思います。

その九つの条件とは、
一、寛容でありながら、厳しい一面がある。
二、柔和でありながら、芯が通っている。

一、慎重でありながら、物事の処理が機敏。
二、有能でありながら、相手を見下さない。
三、従順でありながら、意志が強い。
四、直情でありながら、心は温かい。
五、大まかでありながら、筋は通す。
六、決断力に富みながら、思慮深い。
七、行動力に富みながら、善悪のケジメは、わきまえている。
八、誠に含蓄に富んだ言葉であり、正に組織を効率的に円滑に動かすリーダーとしての必須条件と申せましょう。

この「寛容さ」と「厳しさ」のように、相反し、矛盾するような資質が併記されているのは、臨機応変さとバランス感覚が求められている由縁でしょうか。私のような人間には、とても実行するのは、大変なことですが、どれか、二項目でも意識して、少しでも人望を高めたいと思っております。
幸いにして、私達が理想のリーダーと仰ぐ諫山宗家会長という見本が見近かにあります。信頼して、付いて行けば間違いないという強い信念を持って、今年も一歩ずつ前進したいと思っております。

新婚当時の思い出

シリーズ 15

宗師範 本田 雅陽

友人から「本田君が喫茶店で待つてるよ」と伝えられ、エイプリルフールの日だったので、これはイタツラだと思えばスッポかしました。後日友人から二時間も待つていたよと大目玉!

その頃ボランティアで子供達に手作りの人形劇を見せたり、親子ハイキングやキャンプに出かけたりと、そんな活動をしていた仲間の一人でした。

私は彼に平謝り。とても無やかな人で怒られることも無かったが、お詫びに映画に出掛け、何度かお茶したりしてる内に、何時しか自然にお付き合いが始まっていきました。

お互いの家を行き来しているうちに、其々の親も結婚を前提にと認めてくれました。

しかしここで問題が。末っ子同士の私達、本田家には未婚の兄と姉がおり、この二人が先に結婚する迄待つ事

が条件でした。付き合い始めて四年も経った頃、ようやく私達の番が来ました。親族友人達から祝福を受けて、晴れて結婚式。長い春でした。

それから一男一女にも恵まれ二人で行っていた海や山にも、今度は親子四人で行きました。元々アウトドア派の彼は、キャンピングカーを手作りし、春夏秋冬と釣りや磯遊び、スキー等諸々な遊びで家族を楽しませてくれました。

四十代半ばで、突然病気で亡くなり呆然としました。

父親と過ごした沢山の素晴らしい時間は、子供等の心に残り、今も彼等の人生観に影響しており、その偉大さを感じます。

因みに葬儀出棺の挨拶は「僕にさせて」と、高校生の息子が言い、参列して下さった方々の前で立派な挨拶をして皆様に敬礼を述べ、私も驚く程でした。

子供達も巣立ち、五十才から習い始めた詩吟のお陰で友人や仲間と出会い健康で生き甲斐のある第二の人生を過ごしています。

宗家先生始め周りの皆様方に、感謝の気持ちでいっぱいです。



秋思祭に参加

秘書部長 諫山 星陽

旧暦九月十日に当たる十月五日、太宰府天満宮主催の神事「秋思祭」が大宰府政庁跡の特設舞台で厳粛に斎行された。神事は、西高辻信宏宮司による祝詞奏上に始まり、巫女さんによる優雅な神楽「悠久の舞」が披露された。引き続き、福岡県無形文化財「竹の曲」「筑紫流箏曲」の後、献吟に移った。



澄み切った秋空には半月が煌々と輝き、道真公の御霊をお慰めするのに相応しい好天氣であった。

挨拶に立たれた西高辻宮司は「千二百二十五年前に亡くなられた道真公に思いを馳せ道真公の生き様、そしてその思いに、時を越えて現代の我々が共有できる素晴らしいお祭りです。そして、このように広々とした場所での様な祭典が行えることは、太宰府が誇るべきことです。

今年、野村聡陽宗師の伴奏により、指導者、及び会員により「秋思の詩」を合吟、無事に奉納を終えた。最後に吟道宰都館会員による今様詩を詩情豊かな声で朗々と奉納された。今年、新型コロナウイルス

感染者数の減少もあり、昨年より参列者が多かった。



秋思の詩 献吟風景

道真公という素晴らしい方がおられた歴史に思いを寄せてこの地が歴史と共に思いと共、に生きる場所となつてほしいと願っています」と述べられた。秋思祭に参宴された会員の皆様に心からお礼を申し上げます。

味のある吟詠の提案(5) 吟詠の呼吸法「保息と発声との関係」

邦楽作曲家・船川利夫先生が、吟界に提言された貴重な提言シリーズ第五回目です。

●腹式呼吸と胸式呼吸との違い

発声のための吸息法には胸式呼吸法と腹式呼吸法との二つがあります。第1図を見てください。

〔1〕人柄は必ず吟の上に表れる。
〔2〕メロディー無視では、素晴らしい吟は生まれません。
〔3〕正しい発声法を身につけよう。

〔4〕吟詠の基本姿勢。

の四つの為になる提言をご紹介します。

腹式呼吸のコツ

今回は最も大切な呼吸法となる呼吸法をお話ししましょう。呼吸法には息を吸う吸息法とその息を保ち、声の大小、長短、質(音色)等に応じて息をはき出していく保息法とに大別されますが、最初に吸息法を説明しましょう。

第2図を見てください。右

図のような普通の姿勢から、左図のように、上半身の力を

抜き、骨盤を前傾させて、腹部を前に出すようにします。そ

して、鼻から静かに息を吸い、

空気が腹部(肺の底部)にたまっていく感じを確認してください。これを数回、くり返

し、試験的に、胸に手を当てて吸息してみてください。胸部の動きがまったくなくなったら、完全な腹式呼吸ができています。

次に、同じ吸息をすばやく

やってみてください。この場合も、さきほどと同様、上半身の力を抜き、重心を前にかけるようにして、腹部を勢いよく前に出すようにします。鼻から

吸い込んだ空気が、腹部(肺の底部)にストンと落ち込むように感じられれば、形ができたといえます。

なお、吸息の際に息を鼻からでなく、口から吸い込むと、

上半身に力がいりやすく、腹式呼吸をしにくくなります。ですから、腹式呼吸がしつ

かりと身につくまでは必ず鼻から息を吸うようにしてください。

保息法のコツ

吟詠を行うときは、吸い込

んだ息全部をそのままいきにはき出すのではなく、響きのあ

る声として必要に応じて出していきます。そこで、いったん吸い込んだ空気をたくわえておく方法、すなわち保息法も大切な意味をもっています。その保息法のコツを、次に説明しま

しょう。

第3図を見てください。腹式呼吸によつて吸息された空気が肺にはいります。そのとき、腹部は前に出た状態になっ

ています。保息はその腹部を出したまま、筋肉をゆるめない状態で行います。つまり、吸息運動が終つても、腹部周辺の筋肉をゆるめずに、そのままの状態にしておけばいいわけです。

これが、普通の表現の発声の

ときの保息のコツですが、力強い表現の発声のときにはさらに大量の空気が必要になりま

す。そういうときには、腹式呼吸によつて吸息された空気に加えて、胸式呼吸によつて吸息された空気を保息する必要も出てきます。

そのときには、まず、腹式呼吸によつて吸息、そして、前述のように腹部を前に出したまま

で保息を行い、口を開けた状態で息がもれないようにしてください。そうしておいて、胸部を上にもち上げるようにしてください。そうすると、第4

図のように、瞬間、腹部(肺の底部)の空気はそのまま、胸部(肺の上部)へと新しい空気が入ってくるはずですが、しかし、それ以上の新しい吸息は行われません。

第5図を見てください。胸部をもち上げるとき、瞬間、新しい空気が入りますが、その後、腹部の力を抜いてしま

うと、新たな吸息が行われずに保息が行われます。つまり、

大量の空気を必要とするときは、最初腹部に働いていた力を胸部に移動して保息するわけです。

●腹式呼吸の練習

それでは、腹式呼吸の練習をしてみましょう。

保息と発声との関係

このような保息法は吟詠の

発声するとき、きわめて大切な役割を果たし、豊かによく響く、いわゆるいい声を出す条件を創りだします。

(1) 空気(音量)の確保

声は息が口腔から外に出るとき、声帯が振動して音として発生するわけですから、いい

発声には、当然のことながらいい保息が必要になります。

第6図を見てください。腹

式、胸式による保息法は肺の底部だけでなく、上部にも空気をたくわえることができま

うに、さまざまな発声の条件に

に

(2) 空気(音量)の調整

つづいて、第7図を見てください。保息しているとき、筋肉に働いている力をいろいろと調整することによって吐く息(呼吸)を自由に調整することができます。つまり、保息のために働いている力を一度に抜け

息は一度に外に出てそれなりの発声となり、また、少しづつ抜

いていけば長く息をだし、発声

もまた長く保つことができるというわけです。

(3) 共鳴の調節

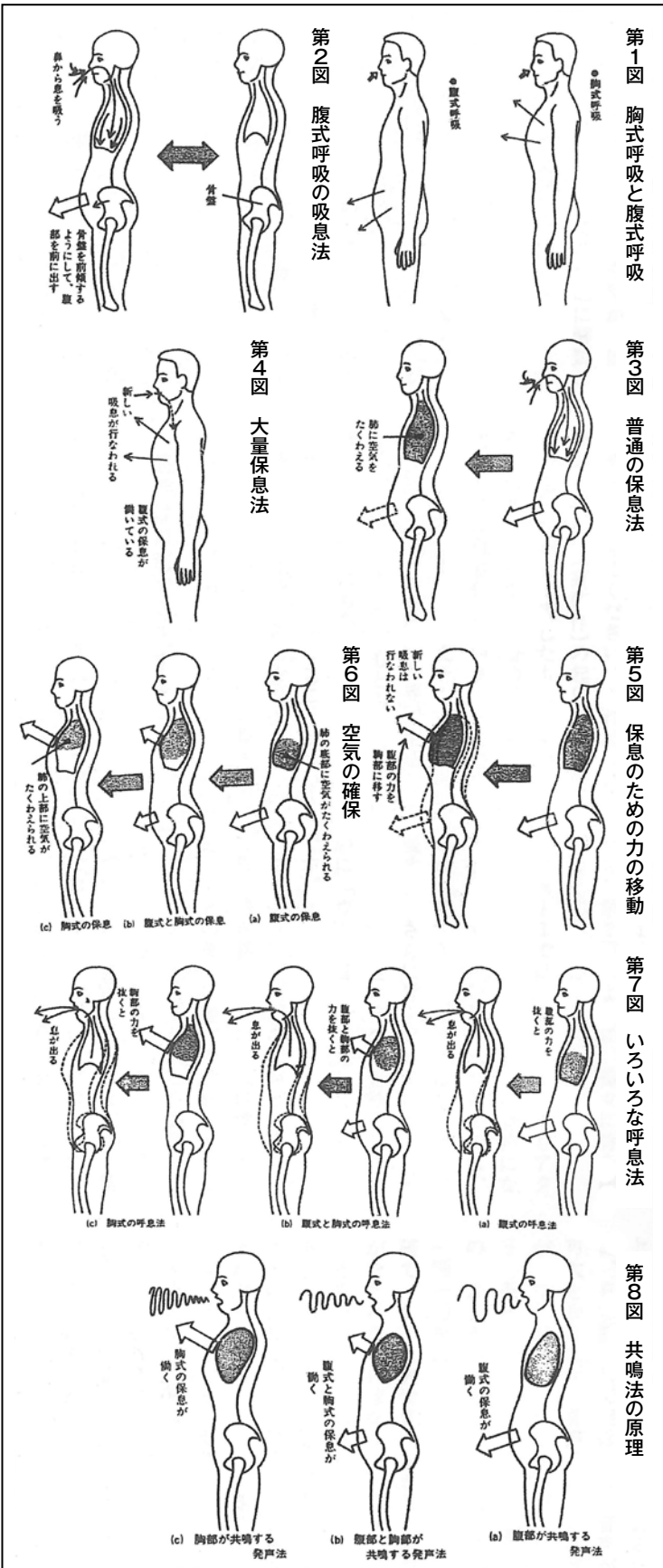
声帯の振動は空気の量はもちろんですが、それがたくわえられている位置によって変化します。第8図を見てください。保息の位置によって、音声の体

内の共鳴部分と状態を調節

できるのいろいろな詩心表現

に

と



第二十九回 太宰府天満宮杯決選大会

吟士権賞Ⅱ平山恵陽宗師範(高齢者二部) 吟士権賞Ⅱ小松扇陽宗師範(和歌の部)

令和四年八月二十八日

(日)西日本地区吟詠剣詩舞連盟主催、第二十九回太宰府天満宮杯決選大会が、プラム・カルコア太宰府で開催された。本会から各部門において多数の方々が入賞を果たした。当日の成績は次の通り。

◆幼少年の部

◎吟士権Ⅱ池田夏音

◎三 位Ⅱ島原桜都

◆中高生の部

◎三 位Ⅱ島原大宙

◆青年の部

◎吟士権Ⅱ池田莉菜

◎進吟士権Ⅱ池田彩花

◆高齢者二部

◎吟士権Ⅱ平山恵陽宗師範

◎進吟士権Ⅱ松嶋蓮陽宗師範

○入 賞Ⅱ富永延代(綾陽会)

井上三津男(昇陽会)

白石眞(光陽会)

△奨励賞Ⅱ鳥井幸陽宗伝

橋口康陽総師範

中島江陽師範代

榎崎忠陽総師範

森玲陽師範代

後藤佳陽宗師範
山田啓陽宗師範



吟士権の平山宗師範と
進吟士権の松嶋宗師範

◆高齢者一部

◎三 位Ⅱ野村真陽宗師範

○入 賞Ⅱ山口呂陽宗師範

郷原菊代(征陽会)

△奨励賞Ⅱ八尋征陽師範

前田学陽師範

吉弘翔陽宗師範

柴田聖陽師範代

田中了陽宗師範

矢津田煌陽師範代

成海宝陽宗師範

◆一般三部

○入 賞Ⅱ恵内隆陽師範代

△奨励賞Ⅱ中島光陽宗師範

廣橋岬陽師範代

◆和歌の部

◎吟士権Ⅱ小松扇陽宗師範

◎三 位Ⅱ野村真陽宗師範

○入 賞Ⅱ松嶋蓮陽宗師範

橋口康陽総師範

八尋征陽師範

中内千鶴(恵陽会)

△奨励賞Ⅱ平山恵陽宗師範

白石眞(光陽会)

吉弘翔陽宗師範

蒲池勝洋(星陽会)

矢津田煌陽師範代

中島光陽宗師範

香月穂陽師範代

廣橋岬陽師範代



和歌の部 第3位 野村宗師範

受賞の喜び

宗師範 平山 恵陽

高齢者二部出場で、思いもかけなく吟士権を受賞することができました。苦節四十年になりますが、最高最後のご褒美かと思いきや、無量です。偏に長年にわたり御指導下さいました宗家・会長諫山岳陽先生のお陰でございます。

又吟友仲間の支えと応援あつての賞です。感謝申し上げます。これからも健康に留意し吟道に精進して参ります。

吟士権受賞に感有り

あしたぎん 朝に吟じ夕べに詠じて

窮年に迫り

斯道の琢磨 好縁を結ぶ

一念三千 妙果を招き

端無くも賞を錫ねり喜び

天を衝く



三位の島原大宙君



吟士権の池田夏音さん(左)と三位の島原桜都さん(右)



大日本正義流 政武館による剣舞



政武館剣士による群舞



剣舞熱演の幼少年



青年の部 池田莉菜さんと池田彩花さん

第51回九州吟連秋季親睦吟剣詩舞大会

盛会裡に開催

九州吟剣詩舞道連盟(諫山岳陽理事長)主催第51回秋季親睦吟剣詩舞大会が、去る十一月二十三日(勤労感謝の日)菊花香る筑紫路のプラム・カルコア太宰府大ホールにて開催された。

新型コロナウイルス流行の影響で、過去2回、中止の止む無きに至りましたが、今回3年振りの開催となりました。

当日は、絶好の秋日和に恵まれ、連盟所属の会員が、早々より続々と参集しての開催となった。

午前九時開場、予定通り午前九時半から開会行事を行った。

まず、山下白峰大会副委員長が開会の言葉を述べ、挨拶の中で宮本武蔵の著書「五輪の書」の中から「量質変化」を引用し、鍛練の大切さを語られた。武蔵の言葉「千日の稽古を「鍛」とし、万日の稽古を「練」



開会の言葉の山下白峰先生

とす。能く能く吟味あるべきものなり」は、吟道にも相通じることと心得たいものと披露された。

含蓄のある開会の言葉のあと、国歌斉唱に代わり、国旗に敬意を行った。

引き続き、九吟連の発展に貢献した故人に対し、追悼追善並びに感謝の誠を捧げると共に、冥福をお祈りした。

秋季大会は、合吟コンクールを併催する為、審査員の紹介に引き続き、坂口篤壽大会委員長が競吟上の注意事項を発表した。



審査規定を発表する坂口理事長代行

尚、本来なら、松口月城先生作詩による会詩を合吟するところでしたが、新型コロナウイルス蔓延に伴い、会員全員の大合吟は見送られました。

続いて競吟の合吟、3人の部の発表が開始された。以前は5人の部も行ったが、前回から3人の部のみの競吟となった。

今回は、全部で36組が出演し、日頃の練習の成果を堂々と発表した。

又、マイクは使用せず、吟士のマスクも装着なしでの吟詠発表となった。

吟詠剣詩舞は、午後からの開始となり、先ず構成吟が披露された。

毎年必ず構成吟を企画発表しているが、今年も、企画構成を諫山岳陽宗家会長が手掛けた。伴奏は、原國龍先生と原タカ子先生が務められた。



伴奏中の原國龍・タカ子両先生

今年のテーマは、「雪・月・花を詠う」で、古今東西の詩歌の中から選んだ、春夏秋冬の名詩、秀歌で構成され、バックには、連盟剣詩舞部員の剣詩舞が舞われ、構成吟に「華」を添えた。



「寒梅」を舞う西本光莉さん



西本奈津喜衣先生



井上玉蘭・成瀬スエ子両先生



構成吟吟士 久保山宗師範 舞人 田原さん



「子夜呉歌」吟士諫山理事長 舞人 有馬クニヨさん

吟詠は、過去最優秀吟士権を獲得した優秀な吟士が務め、素晴らしい吟詠と舞に盛大な拍手喝采を受けた。尚、構成吟には、本会からナレーターとして、中島光陽宗師範。吟士として、松嶋連陽宗師範。久保山孝陽宗師範。平山恵陽宗師範。小松扇陽宗師範。梁池陽宗師範。野村真陽宗師範。諫山岳陽宗家が登場した。

構成吟地吟出演者



野村宗師範 梁池宗師範 小松宗師範 平山宗師範 久保山宗師範 松嶋宗師範

構成吟のトリは、坂口篤壽先生と諫山星陽先生の連吟と米加田由喜衣先生の舞「荒城の月」が披露された。



「荒城の月」舞人 米加田由喜衣先生



構成吟「荒城の月」連吟 諫山星陽・坂口篤壽先生

その後、歴代最優秀吟士権者の吟詠が披露されたが本会からは、令和四年度吟士権者の中内鶴山さんと、令和三年度吟士権者の船木燦陽宗師範



役員吟詠の古澤宗伝

も多数の指導者が出吟し、格調高い吟風に高い評価を博した。本会の独吟出吟者は、古澤奏陽宗師範、後藤佳陽宗師範、近藤晴陽宗師範、河原田和陽宗師範、吉弘翔陽宗師範、古賀西陽宗師範、岸凜陽宗師範、山口呂陽宗師範の九名が、見事な吟詠を朗々と披露して、客席から盛大な拍手を受けた。

ファイナーレは、出場者全員による感謝の挨拶の一礼が行われ、幕を閉じた。構成吟終了後は、本部長理事を中心に独吟が次々と発表された。



構成吟ファイナーレは出場者全員による立礼



大会会長を述べる諫山理事長

閉会行事では、諫山宗家が大会会長として挨拶を行った。常任理事のト리는諫山岳陽宗家が連盟理事長として菅原道真公最後の詩「滴居の春雪」を声高らかに吟じ大会を締め括った。



常任理事吟詠の野村宗師

常任理事吟詠では、野村聡陽宗師が和歌「我が胸の」を朗々たる朗詠で詠じた。



範吟の船木宗師範



範吟の大田宗師範

並びに令和元年度吟士権者の大田君陽宗師範の三名が卓越した吟詠を披露した。

久々の大会は、大いに盛り上が、大盛会の裡に、終了した。来年も十一月二十三日、同じ会場での開催が決定しています。更なるご活躍が大いに期待されます。



閉会の言葉の園山順光先生

大会終了を告げる閉会の言葉は、大会総務の園山順光先生が、ユーモアを交えて「合吟の部は、よく練習したチームが上位入賞したようです。来年も楽しみながら練習に励みましょう。又、元気で舞台上に立てることに感謝したいものです」と述べられた。

挨拶の中で、「九吟連は半世紀前、詩聖故松口月城先生や吟界の重鎮、故深田光霊先生ら錚々たる方々の提案で結成された名門の連盟です。先人、先哲の志に思いを馳せ、和氣藹々と吟詠活動を行って行きましょう」と述べると共に、大会の準備、運営、審査、伴奏に当たられた方々にお礼が述べられた。又、当日ご出場の皆様にも感謝とお礼を申し述べた。表彰式では、上位三組に諫山理事長から二人一人に手渡された。

◎第7位 八尋征陽師範 林谷典陽師範代 野田美峰皆伝



第4位入賞の岩戸扇陽会チーム

◎第4位 梶原翠陽師範代 柴田聖陽師範代 久我節峰皆伝



第3位入賞の岩戸チーム

◎第3位 郷原菊峰皆伝 古賀箔峰皆伝 藤波純山奥伝



優勝者の吟友光陽会チーム



桃山流みやこ舞吟士砂場・手島両先生 舞人 田中玉笙先生



歌謡吟詠「幾山河」 米加田由喜衣先生



剣舞中の坂口先生

◎第8位 田中了陽宗師範 杉谷玲峰皆伝 安永奈峰皆伝
◎第10位 倉内京陽師範代 稲毛紅陽師範代 白石涛陽師範代
○奨励賞 近藤晴陽宗師範 竹内恵峰皆伝 中垣千山奥伝
○奨励賞 森本賢陽師範代 荳嶋功峰皆伝 蒲池勝峰皆伝

第49回 ポリドル全国コンクール

決選大会開催

ポリドル吟詠会総本部（小林快川会長）主催、第49回全国吟詠コンクール決選大会が、去る10月10日（祝）大阪府大東市曙町の大東市立市民会館で盛大に開催された。

当日は、新型コロナウイルス禍の影響を受け、3年振り開催となり、全国各地区本部予選大会で好成績を収めた「和歌・短歌の部」「青年の部」「壮年の部」の各部門から幅広い年齢層の約150名が参加。各出場者が、上位入賞を目指して、日頃の練習の成果をいかに発揮し、熱吟を堂々と発表した。



小林快川会長が講演に立つ

恒例の小林快川先生のユーモア溢れる講評では、「日頃の練習では、声を出すことはもちろんよく耳で聴くということも重要であり、聴いて覚えた吟を自分の体に教え込み、舞台上では、失敗を恐れず、思い

切り、自分の吟を披露して欲しいと思います」と述べ、大きな拍手を受けた。

大会は、地元紙大阪日日新聞社やレコード会社のユニバーサルミュージックの後援を受けたほか、優勝者には、太宰府天満宮宮司西高辻信宏様より提供の太宰府天満宮賞及び毎日新聞社城井副部長（ご手配の毎日新聞社賞が贈呈された。



野村真陽宗師範

本会の入賞者は次の通り。

- ◆ 壮年の部
- ◎ 第5位 野村真陽宗師範
- ◆ 青年の部
- ◎ 第3位 中内鶴峰
(太宰府恵陽会)
- ◆ 和歌の部
- ◎ 第2位 中内鶴峰
(太宰府恵陽会)



青年の部で熱吟中の中内鶴峰さん

初めてポリドル全国吟詠決選大会に出場して

太宰府星陽会 蒲池 勝峰

吟を習い始めてからの大きな目標であったポリドル全国吟詠決選大会。今回思いがけず家内共々出場が決まり、喜びと二抹の不安を抱きながら大阪の会場に向かいました。

当日、「全国決選会場」の看板を目にし、「よし、やるぞ」と気を引き締め競吟に臨みましたが、出吟準備の為、発声練習場に入った途端、その思いは脆くも崩れ去ってしまいました。

その部屋で発声練習をしていた一人の男性の方の吟が素晴らしく、張りのある声でしかも力みが無く滑らかで聞き惚れてしまったのです。しかも出場された方々の吟は殆どの方が同様の吟をされ、競吟中、只々、圧倒させられ通してました。

今回の出場は、大会終了後の講評での「本来の吟声を得る為には同じ吟を何度も繰り返し返し練習することも大切」との言葉を心に留めた一日となりました。

日総連九州大会開催

日本吟詠総連盟第44回九州大会が、十二月十二日（日）熊本市民会館で開催された。

新型コロナウイルス流行の影響で久々の大会となったが、本会からは、野村宗師をはじめ十一名が参加し、朗々と持ち前の吟声を披露し、盛大な拍手を浴びた。

又、剣詩舞も披露され、その優雅で華麗な舞に会場から大きな拍手が贈られた。また、当日は三年振りに、懇親会が実施され、旧交を温め合った。



熱吟中の成海宝陽宗師範



『本能寺』の桃山玉舟先生

伯母を偲んで

岩戸扇陽会 久我 節峰

老人ホームへ入居を決めし伯母と二人菜の花見ゆる宿に泊まりぬ

つながらぬ部屋の電話か月を経て伯母はホームに馴染みゆくらし

艶をもつ伯母の爪切り落剥きしわが爪を切るベッドの傍に

点滴に頼りて三度の夏越えし伯母に購（あひな）つりりんどうの花

勉強せぬと託（かこ）し文も残されて通夜に加わる子のたわい無し
独り身の暮らしを永く支えたる看護免許状棺に納むる

俳句二類

宗師 野村 聡陽

風寒し 幽玄漂つ 秋思祭

子供、孫 一人を欠く おせち膳



大会参加者全員による集合写真

吟道証の清めお祝い

令和四年十月一日(土)快晴に恵まれた太宰府天満宮本殿において、野村宗師をはじめ幹部役員、先生方が同席の上、本部師範代、支部師範代、指導師範代、皆伝、奥伝、中伝、初伝の部の授伝対象者が参列し、吟道証の清めお祝いが、厳かに執り行われた。

尚、来年早々、本殿の改修が、大々的に行われるとのこと、神宮側から、本殿の前で、記念撮影をどうぞと申し出があったので、本殿と飛梅の前で記念撮影をさせていただきました。普段は、秋の大会の時、舞台上で会長から吟道証を頂くが、秋季大会がとりやめになったので、奉賛会の会場を借りて授与式が行われ、野村宗師から、各自に授与された。



吟道証を授与する野村宗師(左)

吟道証授伝者

◆初伝の部

- 藤野潤川(太宰府奏陽会)
- 加峯桂川(小郡星陽会)
- 黒岩鶴川(小郡星陽会)
- 石井善川(小郡星陽会)
- 平井幹川(小郡星陽会)
- 植田幽川(小郡星陽会)
- 五郎丸佳川(筑紫野観陽会)
- 野口柳川(愛宕西陽会)
- 檀城佳川(雅陽会)
- 高光満川(雅陽会)
- 高山寺正川(睦幸陽会)

◆中伝の部

- 熊谷紀月(小郡星陽会)
- 石橋敬月(小郡星陽会)
- 濱崎志月(太宰府星陽会)
- 山田敬月(太宰府蓮陽会)
- 古賀環月(太宰府蓮陽会)
- 桑野勝月(太宰府啓陽会)
- 石橋舟月(吟友忠陽会)

◆奥伝の部

- 安枝昭山(太宰府星陽会)
- 城 桜山(太宰府星陽会)
- 今泉鶴山(太宰府君陽会)
- 松原武山(筑紫野観陽会)
- 石崎宝山(筑紫野観陽会)
- 中垣千山(香椎晴陽会)
- 八尋信山(筑紫野学陽会)
- 山本喜久山(筑紫野学陽会)
- 平山江山(筑紫野学陽会)

◆皆伝の部

- 中山鶴峰(太宰府恵陽会)
- 北川孝峰(朝倉英陽会)
- 北川忠峰(朝倉英陽会)

特野隆峰(香椎晴陽会)
小路糸峰(吟友光陽会)
恵内瑞峰(雅陽会)
岡部博峰(吟友忠陽会)
乾 栄峰(吟友忠陽会)
◆指導者の部
森 令陽(本部師範代)
船木涼陽(支部師範代)
中山琇陽(指導師範代)
昇格された皆様おめでとう
ございます。



吟道証清めお祝い・授伝式記念集合写真

日本最古の和歌

和歌朗詠の習熟を目指して練習に励んでいる私達ですが、日本で最初に詠まれた和歌(倭歌)は、是非知っておきたいものです。

七二年に成立した日本最古の書物「古事記」には、古事記歌謡と呼ばれる歌が二〇〇以上あり、その最初に出てくる歌が、次の和歌です。

八雲立つ 出雲八重垣
妻籠みに

八重垣作る その八重垣を

日本最古の漢詩

漢詩を学ぶ私達は、日本最古の和歌同様、日本最古の漢詩についても知っておく必要があります。

既に、本会指導者の方は「副読本」に掲載されているのでご存知とは思いますが、復習を兼ねて改めて、お知らせします。

現存する最古の日本漢詩集は、「懐風藻」です。撰者不明の序文によれば、天平勝宝三年十一月(七五二)と伝えられています。

この歌の作者は、天照大神の弟神、須佐之男です。

出雲で大蛇を退治した須佐之男は、新妻と住まう為の宮殿を作らせました。その時に雲が立ち上ったのを見て詠んだと伝えられています。歌意は、「雲が幾重にも立ち八重の垣根をめぐらせている。妻を籠らせる為に私も八重の垣根を作るのだ。雲が作ったその八重垣のように」と解釈できます。

一度詠じてみて下さい。

この詩集の冒頭を飾っているのが、天智天皇の第一皇子の大夫皇子の「宴に待す」と題する五言絶句である。

「皇明 日月と光り

帝徳 天地に載つ

三才 並びに泰昌

万国 臣義を表す」

「詩意」天子の威光は日月のようこの世に光輝き天子の聖徳は天地に満ち溢れている天地・人共に大平で栄え、四方の国々は臣下の礼を尽くしている。

吟友発表会

3年ぶりに開催

宗師範 中島 光陽

11月15日(火)「第24回吟友会支部吟詠発表会」を、福岡市城南市民センターで開催しました。コロナ禍で中止になった令和2年のプログラムでは100人だった出吟者が、今回は49人となり、その内10人が欠吟、39人の出吟でした。前田明陽先生のにこやかな開会のご挨拶で始まりました。

3年ぶりの発表会でしたが懸命に吟詠する全ての出吟者に、拍手が送られました。

最後に、朱熹作「勸学の文」を朗々と吟じられた戸川政陽先生が、引き続き講評をされ無事にお開きとなりました。会場のおちこちには、久しぶりに再会した人達の談笑の輪が出来ていました。

一旦お休みした行事を再開するのはエネルギーが要りますが、継続する事の大切さを思う一日でした。

また来年も、より多くの方に参加して頂ける発表会にしたいと思います。



吟友会 吟詠発表会風景
於 城南市民センター



吟友会 吟詠発表会
戸川政陽 宗師範

第五回那珂川市民文化祭に参加

指導師範代 柴田 聖陽

十一月十二日(土)十二月十三日(日)ミリカローデン那珂川にて、育み受け継ぐ文化の「わ」をテーマで多目的ホールでは、書、絵画、陶器等多数展示され、大ホールでは、十三日(日)は、和太鼓・日本舞踊、ダンス等々、舞台発表があり、私達、吟剣詩舞道連盟は、構成吟「我が国の至宝、緑の地那珂川市」松口月城先生を偲んで「をタイトルとして、構成

吟を連盟、五チームで発表、西日本吟詠会からは二組は、岩戸佳陽会・岩戸梁陽会で、浅間馬子唄を!!
二組目は、小松扇陽先生中心に「小督の局」を五人組で、リニューアルされた、大ホールで、大勢の観客の中、息もピツタリ、朗々と吟ずる事が出来ました。
詩吟を吟じてる喜びを感じ参加させて頂いた事に、「感謝」の気持を頂いた一日でした!!



那珂川市吟詠大会に参加して

岩戸扇陽会 久我 節峰

コロナで二年ぶりに第29回那珂川吟剣詩舞道連盟の吟詠大会が、九月四日、中央公民館で開催されました。市長・卓議・文化連盟会長を迎

え、コロナ前より減るも、67名の参加を得ました。感染対策の下、原ご夫妻の尺八と琴の伴奏をいただき、なごやかな雰囲気のもと、恙なく閉会へ。例年は懇親会もあり、他の会派の方と交流し、盛り上がりていましたが、止むなく持ち帰り弁当となったのが心残りです。

今年度より、小松先生が会長の責を負われることになり、普通なら引退できる年齢で、気配りされるのを目にし、会から13名が参加しました。コンクールと異なる雰囲気の中のびのびと吟詠ができ、各会派十名の先生方の模範吟もじっくりと聴け、豊かな気持ちに浸りました。明日からの練習につながる、佳い一日をいただきました。感謝しています。



金山校区文化祭に参加して

吟友光陽会 矢野 弘峰

令和四年度金山校区文化祭が、11月6日(日)に開催され、吟友光陽会から10名が参加しました。

独吟で「白虎隊」和歌「白玉の五月雨は」
合吟で「秋思」「偶感」「峨眉山月の歌」を吟じました。
中島光陽先生のご指導の下、日頃の練習成果を十分に発揮出来たと思います。

コロナの影響で久しぶりの文化祭開催でしたが、バザーもあり大盛況でした。

これらの地域活動を通して詩吟を盛り上げ、会員増強に努めていきます。



金山校区文化祭出場者

課題吟CD完成

テキストと連動、有効活用を!!

私達西日本吟詠会会員が今年二年間、来春の春季吟詠大会と和歌朗詠大会並びに奥伝皆伝審査大会で発表する各課題吟を収録したCD集とテキストが完成しました。まずテキストは、昭和六十三年度より毎年新しく発行されているもので今年で三十五冊目となります。吟界でよく吟じられる和歌、漢詩、今様のほか、これまであまり吟じられなかった詩歌を新しく加えた内容となっていて、大へん勉強になっています。

同じ詩歌だけでは、マンネリ化してしまうので、飽きの来ない様に工夫されています。特に、私達が崇敬する菅原道真公の詩歌は、必ず数首ずつ採用されています。天神様が太宰府で賦された名詩や都への忘郷の念を詠まれた和歌には、優れた名詩と秀歌が含まれています。

この三年余り、新型ウィルス禍で、各教室での練習が思い通りに出来なかつたこともありました。そうしたことで、そうした場合、テキストと連動しているこのCD集は、大いに役立つと大層好評を得ています。

今回も諫山岳陽宗家と星陽宗伝の範吟に都山流大師範伊地知彰山先生の伴奏と監修により、素晴らしい作品が完成しています。どうか、出来るだけ多くの方にお求め頂くようご案内致します。(出版部)



筑前今様十首

太宰府を中心に詠まれ、謳われている筑前今様の中十首をご紹介します。

私達のテキストにも掲載されているものもありますが、筑紫路の四季を彩る優れた今様を季節順に並べてみました。発声練習を兼ねて朗詠されたいら如何でしょうか。

【春】

園生の梅の 追い風に

わが山里も 春めきぬ 門田の雪も むら消えて

若菜摘むべく 野はなりぬ (二川相近)

不知火筑紫の 梅の宮

心すかしく 額つけば 誠の神ぞ 仰がるる

誠の神ぞ 仰がるる (西高辻信貞)

都御はろか 筑紫路に 大臣慕ひし 姿とかや

幸府の宮に 今もなほ 飛梅咲けり 醜郁と

飛梅に 落ちかへり 緋鯉の池の 水ゆらぐ

春の光は 隈なくて 色香あやなす 文の宮

(井上静穂)

大城の山や 城の山や なべて霞に なりめれば 冬げに深き 思ひ川

昔の春こそ ゆかしけれ (二川相近)

【夏】

水城の里や 榎寺

観世音寺の 晩の鐘

明くるに早き 夏の夜の 夢は千年に 通ふらむ

通ふらむ (井上静穂)

【秋】

月澄み渡る 秋風に

木陰小揺らぐ 榎寺

何処ともなく 聞こゆるは 恩賜の御衣の 唐御うた

唐御うた (二川松韻)

筑紫の野辺に 秋ぞ来て 澄みゆく月に 思い出の

都恋しや なつかしや 御衣に泣く夜の 榎寺

御衣に泣く夜の 榎寺 (桃山玉園)

龍門の宮の 唐錦

宝満山の 秋の色

一目に見ゆる 四王寺の 衣懸松の しほらしさ

しほらしさ (井上静穂)

【冬】

都府楼あとに 佇みて

天拝山を おろがめば 雪もまばらの 筑紫路に

立つや武蔵の 温泉の煙

(井上静穂)

語人声吟

今年の十干十二支(いわゆる干支)は「癸卯(みずのと)」です。

私達は「うさぎ年」と言っています

が、「癸」が持つ意味には、「揆(はかる)」という文字の一部であることから、「種子が計

ることが出来るほどの大きさになり、春の間近でつ

ぼみが花開く直前」だそうです。

▼「卯」は元々「茂」と言う字が由来と言われ、「春の訪れを感じる」と言う意味で「卯」と言う字の形が「門が開いている様子」を連想させることから、「冬

の門が開き、飛び出る」という意味もあるそうです。

▼諺に「鬼の登り坂」とありますが、ウサギは後足が長く、坂を登ることが巧みであるところから、持ち前の力を振るうことが出来る、物事が早く進むたとい

えます。

▼私達も「兎」にあやかっ

て、持ち前の足腰の強さで来

年の九十五周年を目指し

会員が心をつにして、来年

の九十五周年を目指し、飛

び跳ねたいものです。(岳

岳)

岳)

岳)

お正月に相応しい和歌と今様をご紹介します。

— 元日の朝や新年会等で朗々と詠じられたら如何でしょうか —

あらた
◎新しき

新しき『年の初めの』
初春の

おとこものやかもち
大伴家持

あらた
新しき『年の初めの』
初春の

今日降る雪の

いや重け吉日

あらた
◎新しき

新しき『年の初めの』
朝めさめ

さいどうもきち
斎藤茂吉

あらた
新しき『年の初めの』
朝めさめ

生きとし生ける

心勵まむ

◎今様『年の初めの』

年の初めの 例として 終わりなき世の めでたさを

せんけたかむら
千家尊福

まつたけ
松竹たてて 門ごとに 祝う今日こそ 楽しけれ

「漢詩と諺」

シリーズ

No.14

人生意気に感ず

この諺の典故は、初唐の名臣で、太宗李世民に仕え後に重用されて宰相にまでなった魏徴です。

魏徴は、「隋書」を編纂したほどで文才の持ち主でした。又、漢詩にも優れ、唐詩選にも選ばれています。「述懐」と題する二十行の五言古詩で特に有名な詩です。

「中原 還た 鹿を逐う 筆を投じて戎軒を事とす 中略

人生意気に感ず 功名 誰か復 論ぜん

この詩は、唐が興る時に学問を投げ打って、戦線に向かう魏徴がその決意を述べたものです。

唐の草創期の男児達の心意気を鼓舞した詩です。

特に、最後の二行の詩句は有名で、古来、諺として広く人々に膾炙されています。詩意は、色々と解釈されて

いますが、一般的には「人間は、相手の気性のいさぎよさに感動して力を尽すのであって、金銭や名誉などの私欲の為に行うものではない」つまり、「人は相手の志や思いの深さに感じて仕事をするのであり、手柄を立てることや金銭等は二の次である」と説いています。

人生で大切なことは、相手の心意気に打たれたことに感激して行動することであるとの心意気を、「人生意気に感ず」と表現しています。

私達の吟詠活動も正にこの精進であり、創設以来脈々と約二世紀に亘り伝えられて来た吟道精神であり、行動規範の根本理念の一つです。

最後の詩句 「功名 誰か復 論ぜん」

も、手柄や名声を求めず、自分に出来ることを黙々と行うことを説いていて、正に名言と言えましよう。

第37回 県吟連ゴルフコンペ

西村さんが優勝

福岡県吟詠剣詩舞連盟(西山啓峰理事長)主催の第37回ゴルフコンペが、令和4年10月25日(火)二丈カントリークラブで開催された。

優勝者は、啓峰吟詠会の西村正美さんで、西山理事長より優勝杯が授与された。

今回で、幹事役の西日本吟詠会の任期が終了し、次回担当の啓峰吟詠会に引き継がれます。

当日の上位入賞者は次の通り。

◎優勝 勝 西村正美 (啓峰吟詠会)

◎準優勝 森友敏行 (吟道宰相館)

◎第3位 松本嶺男 (興国吟詠会)



優勝の西村正美さんと西山理事長(右)

●西日本吟詠会関係者は次の通り。

◎第5位 古賀誠 宗師範

◎第6位 藤浪重憲 (岩戸昇陽会)

◎第8位 阪本浩生 (岩戸昇陽会)



参加者による記念集合写真

県吟連ゴルフ会に参加して

宗師範 古賀 西陽

福岡県吟連ゴルフ会は、県吟連加盟吟詠会所属の会員によつて構成されており会員相互の友好・融和親睦を目的として、開催されている。

現在は5会派の会員が、春秋2回のコンペに参加している。

第1回は、平成15年5月1日に開催されたが、本会からは、飛永筑陽、諫山岳陽、豊福恒陽、吉弘夫妻らの先生方も参加された。

ゴルフ会の歴史は長く、当初は、所属会派も多く、参加者も10組を越える盛況振りだったそうです。

私は第27回(平成28年)春から参加しているが、スコアは全く良くならず、恥しい思いをしているが、他吟詠会の方と顔見知りになり、気楽にコミュニケーションを深めている。心身共にリフレッシュできるゴルフと吟詠を両立させて行きたいと思つています。

秋の文化祭

笙陽会 小川 紀川

去る10月30日(日)、私達笙陽会有住教室と前原教室は、福岡市有住公民館文化祭演技発表の部に出場いたしました。久しぶりの開催ということから、盛会でした。各サークルの堂々とした演技を見てみると(自分達はどうかな)と少し不安になりました。いよいよ私達の順番が近づき廊下に待期している時は、胸は

ドキドキ足は宙に浮いている感じでした。ステージに出て行くとは静まり返っていて、皆さんの視線を二斉に浴び、緊張は最高潮でした。

初めに全員で「降雪」を吟じて「今日もまた」を朗詠し、最後は先生方二人の音吐朗々たる和歌朗詠で締めさせていただきました。それで私達の中、終わることが出来ました。この様な発表が出来たのも先生の暖かいご指導のお陰です。このやりとげた喜びと刺激を励みとして、今後さらに精進したいと思ひます。



秋の文化祭 参加者の合吟風景

道北名寄の春景

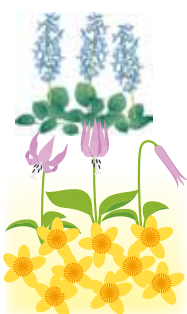
宗師範 船木 燦陽

雪は東風に解けて 陽気回り
天晴れ野廣くして 草花開く
立金 片栗 延胡索
萬紫 千黄 光彩推し

この詩で諸橋轍次博士漢詩コンクールで、佳作を頂きました。

夫の任地、北海道の名寄市にいた時の春景です。四月にやつと雪が解けて、ゴールデンウィークになると、あつという間に、そこいら中が花盛りになるのに、目を見張りました。

金色のエゾ立金花、桃色の片栗の花、真青なエゾ延胡索が、庭といわず玄関、裏口といわず、空き地にも草原にも咲き乱れます。湿度が低いので、色が鮮やかで目が覚めるように、酔ったように、花を見まわったものです。



会員訃報

萩原相談役ご逝去



本会常任相談役で宗師範の萩原敬陽先生が、去る九月十一日、誤嚥性肺炎の為、急逝されました。

通夜は、翌十二日、福岡市早良区「やまお」で、葬儀は、同会場にて十三日に家族葬として、しめやかに執り行われました。

享年九十五歳。萩原先生は、昭和五十五年六月、当時野村聡陽宗師が指導されていた「もくよう会」に入会され、持ち前の美声に加え、熱心な練習態度で、メキメキ上達されました。

本会での最優秀賞をはじめ、対外大会でも大いに活躍されました。

平成十年太宰府天満宮杯吟士権、平成十六年毎日吟士権、平成二十三年九吟連最優秀吟士権を獲得されたほか、西日本吟士権大会、ポリドル全国大会、キングレコード全国大会等でも上位入賞を果たされました。



特に、キングレコード専属吟士として活躍されました。

本会での役職は、授伝部長を永く勤められた後、常任参与、常任相談役を歴任され、会の運営、活動に貢献されました。

永年の功績に対し、創立八十五周年記念式典において特別労賞が、又、創立九十年記念式典において特別褒章が諫山宗家より授与されました。

先生の生前のご功績に感謝と敬意を表しますと共に心安らかなご永眠をお祈りします。

先生の授伝歴は、次の通りです。

- 昭和56年4月 初伝
昭和57年4月 中伝
昭和59年4月 奥伝
昭和61年11月 皆伝
平成3年6月 支部師範代
平成4年5月 本部師範代
平成5年5月 準師範
平成7年5月 師範
平成13年5月 総師範
平成17年5月 宗師範

太宰府仁陽会 来光寺教室

支部長 吉武 桃峰

五十有余年吟詠を続けてこられた高木仁陽先生の御指導の下長い間御世話頂きました須崎支部長より受け継ぎました。この来光寺教室は二十数年の先輩より数ヶ月の新人まで十一名の会で、月に三回のお稽古は待ち遠しく別れを惜しみながらの散会となります。若い時の高木仁陽先生のすばらしい声と指導に魅せられ長く続ける事ができています。年に一度は諫山宗家会長先生の教室訪問を戴きすばらしい声での確なご指導を給わる事は新人の生徒共々有り難い勉強会となります。有り難うございます。

今日は具合が悪かったけど来て良かった。と云われる方、春季大会、和歌大会に参加される人されない人皆で応援し和気あいあいと楽しく活動しています。最後になりましたが、当会の会員である誇りを持ち出会いに感謝し、練習に励み学びを深めて参ります。

崇敬会会員を募集しています
貴方も会員になりませんか?
私達は、太宰府天満宮崇敬会に入会、西日本吟詠会支部会員として、年1回の清掃奉仕活動のほか、天満宮様主催の旅行会や、崇敬会奉幣大祭に参加させて頂いています。特に、大祭での講演会は、毎回著名な講師による素晴らしいお話を聞くことが出来、大好評です。又、会員には為になる会報や有難いお札等も配布されます。正会員と家族会員があります。
入会ご希望の方は、秘書部まで、お申し込み下さい。

二〇二〇BOX
浄財ありがとうございます
(順不同・敬称略)
諫山 岳陽・中島 光陽
野村 聡陽・橋口 康陽
諫山 星陽・檜崎 忠陽
松嶋 蓮陽・中島 風陽
久保山 孝陽・萩原 唱陽
平山 恵陽・池田 慧陽
田中 観陽・前田 学陽
北川 英陽・花田 宏陽
肥塚 景陽・古賀 富陽
岸 凜陽・森 令陽
古賀 西陽・香月 穂陽
吉弘 翔陽・江藤 炎陽
梁池 梁陽・土屋 綾峰
野村 真陽・郷原 菊峰
本田 雅陽・小路 糸峰
山田 啓陽・中内 鶴峰

行事予定表
1月6日(金)新年会
1月8日(日)九吟連(福岡)役員会
1月15日(日)特別研修会(九吟連)
1月22日(日)優秀吟士研修会
1月31日(火)九吟連(本部)役員会
2月5日(日)特別研修会(毎日)
2月11日(土)祝九吟連筑後大会
2月19日(日)優秀吟士研修会
2月24日(金)九吟連福岡大会
3月5日(日)俱吟連春季大会
3月21日(火)祝春季大会(第1部)
3月25日(土)毎日吟士権(福岡)
3月26日(日)毎日吟士権(福岡)
4月2日(日)吟道奉賛会
4月2日(日)毎日吟士権(北九州)
4月23日(日)春季大会(第2部)
4月29日(土)祝九吟連決選大会
5月14日(日)毎日吟士権(本選)
5月28日(日)筑吟連50周年大会
6月4日(日)和歌朗詠大会
6月11日(日)天満宮杯(福岡)
7月2日(日)ポリドル(九州山口)
8月27日(日)天満宮杯(決選)
10月1日(日)秋季大会
10月8日(日)ポリドル決選(予定)
10月22日(日)県吟連秋季大会
11月23日(木)祝九吟連秋季大会



大宰府天満宮杯決選大会で和歌の部で吟士権を頂いて

宗師範 小松 扇陽

去る八月二十八日(日)第二十九回大宰府天満宮杯が、コロナ感染対策のもと、第一回として「和歌の部」が実施されました。

今大会は、天満宮杯に貢献されてこられた大田虹松先生のご逝去の知らせ。諫山会長先生は急病で、手術されるため入院となりご欠席。寂しさを感じる一日でした。

諫山会長の教えで、舞台上に立つ時は、雑念を消して集中する。作者の詩の気持ちになり、誰に聞いてもらいたいか伝える事が大事と聞かされていてます。この大会で誰かに伝えてもらいたい思いは、入院なされている会長先生でした。が、いざ本番となると、上手にいかないものです。繰返しの高音で、発声時、思いが込み上げ上手くは、こなく、気持は落胆。そんな中での受賞は有難く、すべての人に感謝です、有難うございました。



吟士権者 小松扇陽宗師範

「我が家の家宝」シリーズ ⑳

田中 煌峰(燦陽会)

私の宝物は、手作りの柳川手まりです。

母が六〇の手習いで柳川手まりを習い始め、私も習うようになりました。

今は立派な発泡スチロールの球体があるので、その上に綿を巻き、又その上に細い糸を、堅くならずゆるくならず巻いてゆき、まん丸にしてから地割りをします。十等分や八等分を土

台に刺し入れ模様によってはその上に補助線を入れて、色合いを考えて刺してゆきます。私は孫のためにと習い始めました。出来上るまでは何ヶ月もかかるので(これにかり切りではないので)完成したまりを見る気分は何とも言えません。

ゆずつて欲しいという方もありますが、その手間を考えると、とてもゆずる気にはなれません。

あらためて亡くなった母に、「私の作品を見てはしかなかったなあ」と、つくづく思う今日この頃です。



私の秘伝料理 シリーズ ㉔



船木家の台湾炒米粉

支部師範代 船木 涼陽

「船木家の台湾炒米粉」をご紹介します。父方の祖母は戦前台湾で暮らしており、祖母が地元の方から習ったレシピを母が受け継ぎました。(二人分の材料です)干し椎茸四枚を戻します。卵一個で錦糸卵を作ります。筍100g、人参1/2本、長ネギ一本、さやえんどう八枚、豚肉100gをそれぞれ食べやすい細切りにし、油を熱したフライパン

で炒めます。椎茸の戻し汁を加えて、塩二つまみ、コシヨウ味の素各少々で味を調え、五分程煮込みます。野菜に火が通る間に米粉を戻します。

大き目のボウルか鍋に米粉200gを入れ、熱湯をたっぷり注ぎ、半透明の乾麺が柔らかく乳白色になるまで二分程ほぐしていきま。ザルに上げて水気をしっかりと切り、更にほぐしながら麺の表面の水

分を飛ばします。野菜の鍋に加えて汁気がなくなる迄炒りつけます。皿に盛りつけ錦糸卵と紅生姜をトッピングして完成です。祖母曰く、大事なポイントには米粉は台湾新竹産のものを使うこと輸入食材を扱う所で手に入ります。また米粉を茹でて水に晒すのもNGですが、家庭料理なので具材は何でもOKです。実は子供の頃は、米粉のもそもそした食感がちよつと苦手だったのです

が、久しぶりに作ったら美味しかったです。



亀井神道流西日本吟詠会

ホームページで紹介

ホームページアドレス <https://kameigin.com/>



訂正とお詫び

吟友(第八一号)九月号の記事中記載漏れがありました。古賀西陽先生 皆勤賞 岩本はる子様笙陽会に入会

編集後記

諫山会長が吟界に復帰されて、安心致しました。

広報部員

- 担当役員 .. 鳥井 幸陽
- 広報部長 .. 船木 燦陽
- 部長代行 .. 花田 宏陽
- 副部長 .. 船木 涼陽
- 部員 .. 林谷 典陽
- .. 廣橋 岬陽

発行者 亀井神道流西日本吟詠会
事務局 那珂川市道善三六
渡邊昇陽方
印刷所 井上紙工印刷株式会社